

第1回 学校運営協議会記録

日時：平成30年7月9日（月）15:30～17:00

場所：本校別館2階 ふれあい教室

内容

1 校長挨拶

2 学校協議会委員紹介、事務局紹介、実施要項確認、会長選出

- ・教頭より 学校運営協議会実施要項について説明
- ・運営協議会会長選出 佛教大学 大東先生
- ・副会長選出 寝屋川第十中学校 佃先生

3 学校経営計画について・校長より説明

4 本校の概要について（各分掌、各学年より報告）

5 協議

- ① ・授業見学回数がひとり一回では少ないのではないか。「主体的で深い学びの研究」について、研修会への参加は行われているのか？
→実際に外に出て学ぶ時間が無いのが実情。研修内容を伝達できる仕組みも充分できていない。
- ② ・授業力向上チームの議論において、授業力向上の「ものさし」は何か？
→授業アンケートにおける、「知識や技能が身についたか？」の項目のポイントアップとしている。
・教師側の話だけでなく、生徒の活動・・・英検の目標パーセンテージなどを掲げたほうが良いのでは？せっかく英語に特化した英語アドバンスト専門コースがあるのだから。
- ③ ・今回の学校経営計画の目標とする数値が、全体的に控えめ目であるがなぜか？
→まずは現状を維持し、そこからのアップをめざしている。
・教科を教えるだけじゃなく、他の色々な課題がある。新たなチャレンジをする事も大切では？
伝統を重んじるのもわかるが、現状維持イコール衰退を意味している。何か1つ、切り口を右から見るのを左から見る。
・たとえば「丁寧にしましょう」といっても人によってもものさしが違うので、数値化する。更に実数も大切だが、アプローチの方法を共有すべき。「丁寧とはこういうこと」という共通認識を持ち、具体的にプロセスを共有するという事。
- ④ ・授業力向上の指標として、授業満足度で計るものか？理解度で計るべきではないか。満足度を計っている具体的な質問とはどのような質問か？
→授業アンケートの全ての質問に対する回答の上位2区分（肯定的評価）のトータルパーセンテージの数字を「満足度」としている。最も大切なのは最後の二つの質問。
- ⑤ ・時間が無い中で抜本的に何かを変えられる人は校長しかない。
→学校現場は多忙な状況。各分掌や教科に業務の削減についてアンケートを行い、検討中である。
- ⑥ ・せっかくコミュニティスクールなので、学校内だけでなく地域に投げかけるべきではないか？
経営の視点から見ればアウトソーシングしてみてもどうか？
→学校運営協議委員の皆さんには守秘義務をもって参加してもらっているが、どこまで広げるかは課題である。

6 諸連絡